

第5学年 社会科学学習指導案

1 小単元名「わたしたちの暮らしと情報通信①～新聞社で働くAさんたち」

2 小単元の考え方

こんな児童だから

<学ぶ意欲・態度>

本学年の児童はこれまでの社会科学学習において、社会事象や人物と出会い、自分の課題を持って学習を進めることができるようになってきた。また、体験的な活動を非常に好み、自分の五感を使っている調べ学習には積極的に取り組むことができる。また、家から資料を持ってきたり、調べてきたりする児童もでてきた。しかし、意欲が長続きしない児童も多く、途中で追究する意欲が低下してしまう児童もいる。

<問題を解決する力>

- ・ 「漁港のBさんたち」の学習では、2つのグラフから持った疑問を交流したり、マップに表したりすることで、自分の課題について明確にしていくことができた。
- ・ 資料の読み取り等は、学習中に指導したり、帯タイム等を使って能力の育成を図ってきたりしたために、次第に育ってきているが、まだ個人差が見られるため今後も継続して指導していく必要がある。
- ・ 自分の考えを持つことが難しい児童や、考えの根拠を明確にさせることができない児童もいたが、ラベル図・マップを書くことで、自分の持っている事実が視覚化されるため意欲的に取り組み、どの児童も自分の考えをつくることができていた。
- ・ ラベル図、マップともに何度か作成することで、自分の考えをより分かりやすく伝えようと意識することができるようになってきた。

<生きて働く知識（見方・考え方）>

本学年の児童は、福岡市の中心部に生活し、あふれる情報の中で暮らしている。家庭でもTVやインターネット等情報通信機器を使ったり、日常的にメールや自分の携帯電話を使っている子もいる。しかし意識して情報を受け取ったり、活用しようとしたりする子はおらず、無意識のうちに便利だから、簡単だからという理由で使用している子が多い。つまり、そこに情報を発信している人が努力や工夫をしながら、伝えていることに気付いていない。1学期に学習した食糧生産の生産者と消費者のようにそれぞれの立場において考えることとつないでいきたい。

こんな教材で

本小単元では、新聞社のAさんたちの新聞作成の工程を通して情報産業と生活とのかかわりや情報を伝える人々の工夫や努力について捉えさせることをねらいとしている。

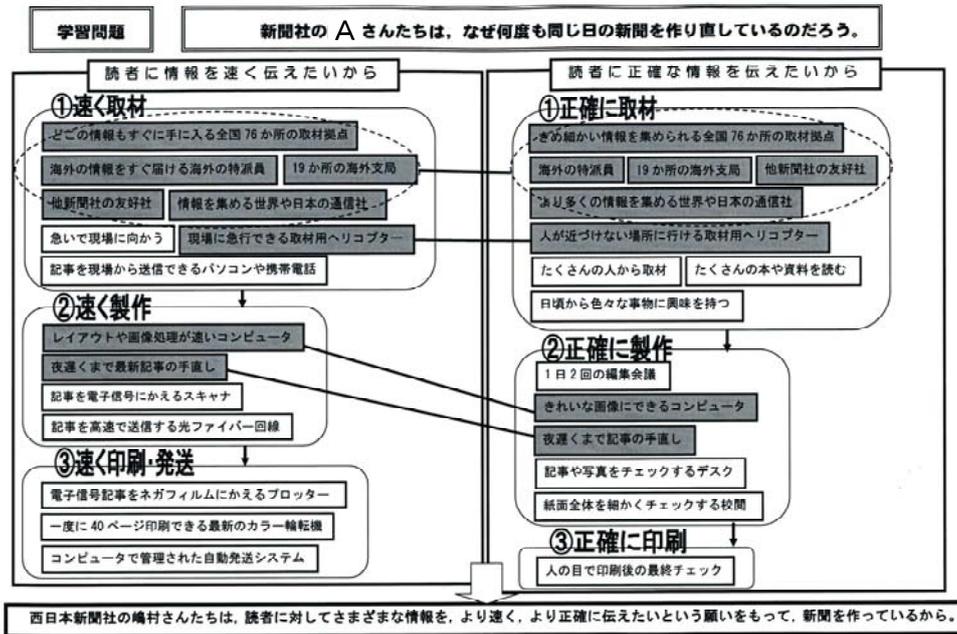
新聞社は、福岡市中央区天神に本社があり、毎日、たくさんの情報を九州一円に届けている九州最大の新聞社である。そこで働く人々は、地域の人々に、自分が取材をしたり、原稿を書いたりした情報を読んで欲しい、暮らしに役立てて欲しいという願いと正確な情報を速く、確実に、読者へ届けるという使命感を持っている。そして、正確な情報を速く、確実に、読者へ届けるための工夫や努力を追究することで、使命感を持って働く新聞社の人々の生き方に触れさせていく。その中でも編集局に勤める「Aさん」と出会い、話を聞いたりすることによって、情報を選択すること、伝えたい思いと、読者のニーズとのつながりについて感じることができる。

記者のはたらきとしての取材の様子や、編集に携わる人々、制作にかかわる人々、印刷や配送を行う人々とそれぞれの役割に分かれ、速く・正確に情報を届ける工夫や努力を、新聞ができる行程を調べていくことで見るができる事。また、Aさんの考えを聞いたりすることを通して、発信者－受信者の立場や情報の有効な活用について考える上で有効であると考えられる。

以上のことを通して指導要領の内容(3)ア「放送、新聞、電信電話等の産業と国民生活とのかかわり」イ「これらの産業に従事している人々の努力や工夫」を捉えさせることができると考えた。

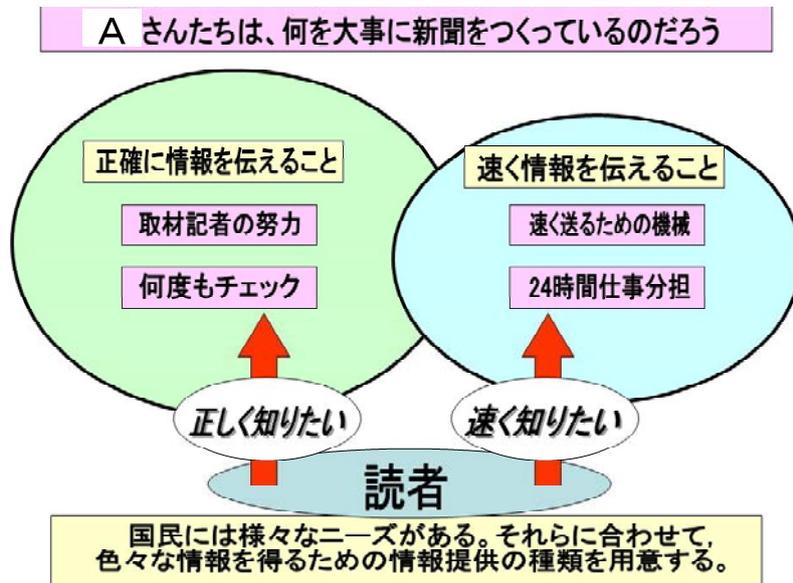
こんな指導構想で

研究内容① 考えをつくり、高める表現物づくり こんなラベル図で



「速く伝えたい」「正確に伝えたい」という2つの視点からマップを作成させる。それらの根拠となる事実には、共通しているものが多い。例えば、新聞作成の工程の中で、同じ「ヘリコプターで取材」という事実でも、「速く現場へ向かうヘリコプター」「近寄れない場所も取材できるヘリコプター」と両者の関連を図ることができる。ラベル図を作成させ、全体交流を通して両者の関連を強くしていくことで、速く・正確に伝えようとする新聞作成に携わる人々の努力や工夫に気付くことができる。

こんなマップで



「速く伝えたい」「正確に伝えたい」という両者がどちらも大事だということを押さえた上で、両者についての個人の価値感を出させるようにする。新聞紙面の構成を考えさせることで、新聞を作成する A さんたちの心情にせまらせると同時に、情報の発信者としての立場だけでなく、受信者の立場も考えさせることによって、受信者のニーズに応えようとする発信者の立場とその情報をよりよく利用しようとする立場の受信者について見方を広げることができる。また、自分自身も受信者であることを捉えさせ、自分自身の生活に振り返ることができるようにすることができる。

研究内容② 表現物を活用した交流活動の工夫

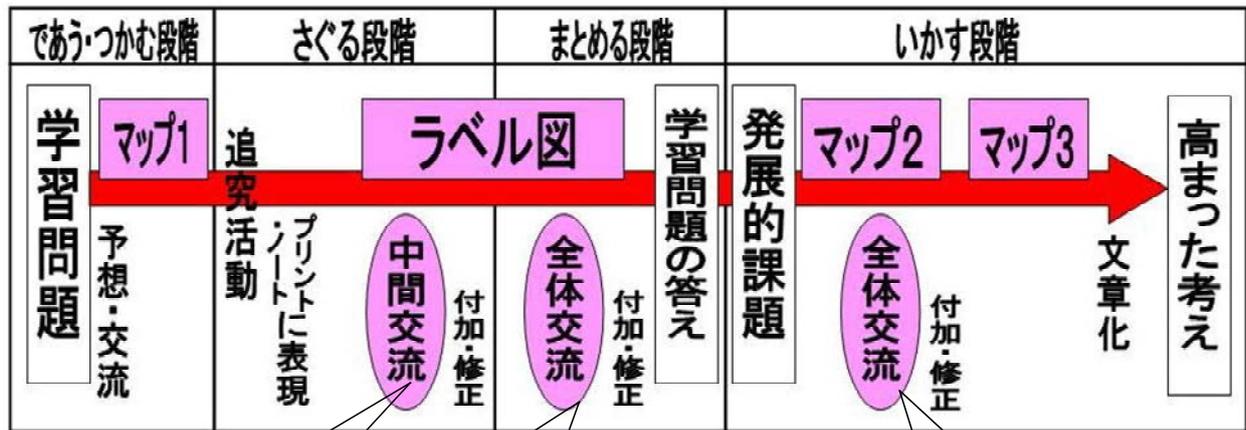
本単元では、重点である「考える力」を中心とした基礎・基本の力を育成していくために、表現物とそれを活用した交流活動を下図のように位置付ける。ここでは、児童の実態や教材の特性を考慮し、まとめる段階までといかず段階2段階で考える力を育成していくことが適切であると考えている。

【であう・つかむ段階～まとめる段階】

学習問題「新聞社のAさんたちは、なぜ同じ日の新聞を何度も作り直しているのだろうか」に対する予想を交流し、マップ①を作成する。マップ①で明確になった視点をもとに追究活動を行い、調べたことをもとにラベル図を作成する。同じ視点のグループで中間交流することで足りなかった事実を加えたり、書き直したりした後で、全体交流を行う。全体交流を通してそれぞれの相違点や共通点から両者の関連に気付いた上で学習問題の答えを書かせる。これらを通して事実認識・関連認識を培うことができると考えている。

【まとめる段階～いかす段階】

発展的課題「Aさんたちは何を大事に新聞を作っているのだろうか」についての考えを、これまでの学習内容をもとにマップ②に表現させ、全体交流を行う。全体交流後マップ③を作成（マップ②の付加・修正）し、最終的な考えを書かせる。これらを通して、新聞社につとめるAさんたちの情報を発信する立場としての責任感や使命感等の心情に迫るとともに、それが読者のニーズに応じていることに気付くことで、受信者の立場という視点を加え、自分自身も受信者であることと同時に、自分も情報を利用する立場としてどうするか等、考えを高めていくことができると考えている。



交流の組織化

・事実の認識を深くし、自分のラベル図の付加・修正が行えるように、「速さ」と「正確さ」のそれぞれの視点ごとに少人数でラベルの検討、グループ・タイトルの検討を行わせる。

場の構成

・友達の考えと自分の考えを比較し、より根拠を持った考えへと高められるように、意図的にグルーピングし、中間交流会を行わせる。

交流の組織化

・「速さ」と「正確さ」両者の関連を図ることができるようにするために、児童のラベルを分析し、交流させたいことを焦点化した上で細案を書く。

・友達の考えと自分の考えを比較し、それぞれの共通点から両者を関連付けて考えを持つことができるように、選択した代表児のラベル図をもとに交流活動を行う。

・友達の考えを聞き、自分の考えと関連付けられるように、相手のラベルをラベル図に付加させ、線でつなぐなどして関連付けさせる。

場の構成

・相手に対してわかりやすく説明させるために、自分のラベル図や資料を使って説明できるように掲示を行っておく。

交流の組織化

・速さと正確さの重点と編集の苦勞を共感できるように、自分が新聞をつくるならという観点でマップを作成させ、分析した上で交流が焦点化するよう細案を作成する。

場の構成

・相手に対してわかりやすく説明させるために、自分のマップを使って説明させる。



こんな目標と指導計画で

3 小単元の目標と指導計画（全14時間）

＜学ぶ意欲・態度＞

情報通信産業で働く人々の姿を通して、通信業と国民生活のかかわりに関心を持ち、情報発信の仕組みや働く人の努力や工夫、問題点について、自分の課題を持ち、意欲的に調べることができる。

＜問題を解決する力＞

- ・ 同じ日の同じ新聞社の新聞2版を見て両者を比較し、気付いたことや疑問から学習の課題をつくることできる。（課題を発見する力）
- ・ 文書資料やパンフレット、見学やインタビュー等を活用しながら、自分の課題に応じて資料を選択し、調べることができる。（調べる力）
- ・ **新聞社とわたしたちの生活のかかわりや新聞社で働く人々の努力や工夫を調べたことをもとに、通信業がわたしたちの生活に大きな影響を及ぼしていることや読者としての自分とのかかわりについて考えることができるようにする。**（考える力）
- ・ 調べた事実を端的に表現してラベル図を作成し、自分の考えつくりを生かすことができる。
また、自分の考えをマップに表現し、友達と交流することができる。（表現する力）

＜生きて働く知識（見方・考え方）＞

新聞社で働く人々が、わたしたちの暮らしに必要な情報を正確に、速く、確実に読者へ届けるために努力や工夫をしていることを理解することができるようにする。

段階	配時	学習活動と内容	基礎・基本の力と支援
であう	1	1. 身のまわりにある様々な情報通信手段について話し合い、自分の興味を持った情報通信業について調べる。 ・ テレビ・新聞・電話・ラジオ	○ 自分の興味を持った情報通信手段について資料や家の人への聞き取り等をもとに調べさせる。 学ぶ意欲・態度
	1	2. それぞれの情報通信業とわたしたちの暮らしとのつながりについて話し合う。 ・ 各メディアの特徴 ・ 各メディアの利用法	○ 調べたことをもとに、それぞれの情報通信業の特徴（よさ・不便さ）や暮らしとのつながりについて発表させ、立場を変えて考えさせる。 課題を発見する力〔資料読解力〕
	1	3. 新聞について気がついたことを話し合う。 ・ 新聞の特徴 ・ 記事の量・文字の量の実感 ・ 新聞社について	○ 新聞の持つ情報量の多さに実感できるように、実際に紙面を並べてみたり、文字数を数えてみたりさせる。 課題を発見する力〔観察力〕
つかむ	1	4. 2つの資料をもとに、学習問題をつくり、考えをマップ①に表現する。 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 5px;">新聞社のAさんたちは、なぜ、同じ日の新聞を何度もつくり直しているのだろう</div>	○ 学習問題を捉えさせるために、版数の違う新聞を提示し、見出しや内容、写真に違いがあることに気付かせる。 課題を発見する力〔資料読解力〕 ○ 2つの版の新聞を比較し、違いからなぜ違いがあるのかについて、考えさせる。 課題を発見する力〔資料読解力〕 ○ 友達の考えと同じ所、違うところを捉えさせ、追究の視点を決定させる。 考える力〔比較・関連〕
さぐる	①	4 5. 自分の調べる計画をたて、追究の視点に沿って調べ、ラベル図にまとめさせる。 ・ 正確な情報を伝えるため（取材、編集、人の工夫や努力） ・ 速く情報を伝えるため（協力体制、機械、人の工夫や努力） ① (1) 文書資料やVTRで追究する	○ 自分の追究の視点に沿って、どんな資料があればよいか、どんな方法で調べればよいか計画を立てさせる。 調べる力〔資料収集・選択力〕 ○ 調べた事実から、要点を抜き出して書くことができるように、学習プリントに調べたことを書かせ、ラベルにまとめていくようにさせる。 調べる力〔資料読解力〕

<p>② + 総 ①</p>	<p>(2)新聞本社・製作センターへ見学する。</p> <p>(3)調べた事実を整理し、ラベル図にまとめる。</p> <p>6. 中間交流会をする。</p>	<p>○ 五感を通して調べる活動ができるように、新聞本社・製作センターを見学したりインタビューしたりするようにさせる。</p> <p>調べる力〔資料読解力〕</p> <p>○ 調べた事実同士を比較・関連して事象の意味や価値を考えられるように、ラベルをグループ化してタイトルをつけさせる。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 友達の考えと自分の考えを比較し、より根拠を持った考えへと高められるように、中間交流を行う。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p>
<p>ま と 組 本 時 る ①</p>	<p>7. 全体交流をして自分のラベル図を付加修正し、学習問題の答えを整理する。</p> <p>(1) グループのラベル図をもとに、全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な情報を伝えるため ・速く情報を伝えるため <p>(2) 話し合いをもとに、自分のラベル図を付加・修正し、学習問題の答えを文章化する。</p> <p>学習のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新聞社のAさんたちは、わたしたちに役に立つ情報をより速く、より正確に伝えたいという願いを持って、新聞をつくっている</p> </div>	<p>○ 友達の考えと自分の考えを比較し、それぞれの共通点から両者を関連付けて考えを持つことができるように、2つの視点からのラベル図をもとに交流活動を行う。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 相手に対して分かりやすく説明させるために、自分のラベル図を使って説明させる。</p> <p>表現する力〔説明力〕</p> <p>○ 友達の考えを聞き、自分の考えと関連付けられるように、相手のラベルをラベル図に付加させ、線をつないで関連付けさせる。</p> <p>表現する力〔比較・関連〕</p>
<p>い か か す 1 一 組 本 時 1</p>	<p>8. 紙面を構成する考えについてAさんが何を大事にしているか考えさせ、マップ②に表現させる。</p> <p>発展課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんが新聞をつくる時に大事にしていることは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に情報を伝えることを大事にしたい ・速く情報を伝えることを大事にしたい </div> <p>9. 全体交流をし、課題についての考えをマップ③に表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップ②を使った全体交流 ・Aさんの話を聞く。 ・交流後の考えをマップ③に表現する。 <p>10. わたしたちのくらしと情報通信業についてのまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップ③をもとに、文章化する。 <p>予想される児童の変容の例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>今までは、情報をただ単に受け取るだけだったけど、新聞社の人々がわたしたちのことを考えて、思いを持って伝えてくれることを知って、もっと考えながらしっかりと受け止めて、情報を生かしていかなければいけないなと思いました。</p> </div>	<p>○ 友達の考えと同じ所、違うところを捉えさせ、追究の視点を決定させる。</p> <p>考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 相手に対して分かりやすく説明させるために、自分のマップを使って説明させる。</p> <p>表現する力〔説明力〕</p> <p>○ 資料から受信者の立場に立って情報を受け取ることにについて考えさせる。</p> <p>考える力〔多様な視点・立場〕</p> <p>○ ビデオでAさんの話を、全体交流でとらえたことと関連させながら聞かせ、情報を伝えていく使命感や責任感について感じ取らせるようにする。</p> <p>考える力〔多様な視点・立場〕</p> <p>○ 自分が書いたマップをもとに、自分の主張したいことを文章で書き表させる。</p> <p>表現する力〔書き表す〕</p>

4 本時 マップ②を活用した全体交流 (13 / 14)

5 本時の目標

- 「自分の新聞」について考えたことを、マップ②をもとに交流し、友達の意見や提示された資料も受け入れながら、自分の考えを再構成することができる。 **考える力〔多様な視点・立場〕**

6 本時指導の考え方

- 本時は、新聞づくりにおいて、何を重点に置くかということについて考えを交流していく場面である。

前時までに児童は、西日本新聞社の新聞作りを学習することを通して、新聞社の人々が、「速く」・「正確に」情報をわたしたちに伝える努力や工夫をしていることをつかんでいる。その上で、『Aさんが新聞を作る時に大事にしていることは何だろう』という課題について、自分の考えを作っている。

・速く伝えることを大事にしたい・正確に伝えることを大事にしたい等、新聞作成の上でどちらも重要なことに対して価値判断をさせていくことで、新聞製作に携わるAさんたちの苦労や努力について考えさせ、共感させていきたい。

また、児童は考えをつくっていく中で、発信者としての新聞社の人々の考えに目が向いており、受け取り手である読者の方にはあまり目が向いていない。「正確で、速く」情報を送ることは、「情報の受け手のニーズに応じた情報を発信していく」ためであることと同時に、新聞社の人々の思いが込められていることについて感じ取らせていきたい。

- そこで、本時指導にあたっては、以下の手立てをとるようにする。

(1) 考えを付加・修正し、高める交流の組織化

児童の1人1人の考えの違いが表れるように、マップを作成させ、そのマップをもとに交流活動を行う。

- 実態カルテの活用

一人一人のマップをもとにカルテを作成し、分析する。児童が持っている考えとその根拠をとらえた上で細案を作成し、交流活動が焦点化するように活用する。

- 代表児の選定

交流を通して考えを高めることができるように、少数意見のマップから選定し、活発に意見を交流できるようにする。

- 板書によるマップの再構成

代表児のマップをもとに、黒板にもとになるマップを作成し、付け加え等の意見とともに、黒板のマップに付加していくようにし、いつでも自分のマップと比較することができるようにしておく。また、意見交流時には自分のマップを提示しながら発言するようにし、比較しながら発言できるように指導する。

- 資料の提示と発問

交流後に発信者としての立場と受信者としての立場、両者から自分の考えを見直すことができるように、資料を提示し「なぜこのような工夫をしているのか」問いかけ、発信者として、受信者を意識した情報通信であることに気づかせる。受信者には自分たちのような子どもからお年寄りまで幅広いことを想起させ、受信者のニーズは様々であることをとらえさせ、様々なニーズに合わせて情報を発信していることを考えさせる。

- マップの再構成

全体交流終了後、交流や話を聞いたことを通して変容した自分の考えを考え表現マップに再構成させることで、他者の意見をもとに自分の考えを高めていくようにしていきたい。

(2) 考えを比べたり、つなげたりして交流できる場の構成

- 学習の足跡・資料の掲示

全体交流時に活用できるように、今までの学習の足跡や、写真資料・文書資料等を拡大して掲示しておく。

- 学習場面に応じた交流活動の形態

同じ考えを持児童をグルーピングし、全体交流を行う中で必要に応じて小グループ内交流ができるように、座席の配置を行う。

本時の主張点

本時では、「正確で、速く」情報を送ることは、「情報の受け手のニーズに応じた情報を発信していく」ためであることと同時に、新聞社の人の思いが込められていることに気付かせ、発信者という立場と受信者という立場からの視点を加えられる姿（多様な視点・立場から考える力）をねらっています。そのために、「Aさんが新聞をつくる時に大事にしていること」についての交流を通して、新聞製作に携わるAさんたちの苦労や努力について考えさせた上で発問や資料を提示し、読者の思いについて気付かせることに重点を置いて交流させていきます。

7 本時の展開

学習活動と内容	支援・留意点
<p>1 本時のめあてを確認する</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんたちが新聞づくりで大事にしていることについて、マップをもとに話し合い、自分の考えを高めよう。</p> </div> <p>2 新聞をつくる時大事にしていることを話し合う。</p> <p>(1) 代表児がマップをもとに自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速く ・正確に <p>(2) 質問や意見を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそれを大事だと考えたのか ・どんなつながりがあるか ・証明する具体的な事実は何か <p>3 紙面の違いについてのAさんの思いから、受信者の思いと発信者の思いについて考える。</p> <p>(1) それぞれの工夫が何のために行われているかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速く正確に伝えるための工夫 <li style="text-align: center;">↓ ・伝えたい思いと読者のニーズ <p>(2) 提示された読者の視点を含めている児童のマップを見る。</p> <p>(3) Aさんの思いをVTRで視聴する。</p> <p>4 話し合いを通して、変容した自分の考えをもとにマップを修正する。</p> <p>5 「今日の学習で」を書き、自分の考えの変容を見直す。</p> <p>予想される児童の変容の例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>今までは、情報をただ単に受け取るだけだったけど、新聞社の人々がわたしたちのことを考えて、思いを持って伝えてくれることを知って、もっと考えながらしっかりと受け止めて、生かしていかなければいけないなと思いました。</p> </div>	<p>○ マップを書くことは、慣れていない児童が多いため、マップの書き方、つながり等に不十分な児童がいる。そこで、視点やつながりが少ない児童を代表児とし、活発な発言や付け加え等ができるものとする。</p> <p>※ 重点をおいた視点について、なぜそれを選んだのか、根拠にはラベル図や具体的に今までの資料を活用しながら、発言させるようにする。</p> <p>○ 質問や意見は、自分のマップをもとに発言させ、図による違いについて比較しながら発言させるようにする。発言した内容は板書のマップに付け加え、事実やつながりをつけられるようにする。</p> <p>○ 質問や意見の交流から、違う視点を取り入れるために、「なぜこのような工夫をしているのか」と発問することで、情報の受信者である読者のことについて気付かせるようにする。</p> <p>○ 自分のマップを修正することができるようにするために、読者の視点を含めている児童のマップを提示する。</p> <p>○ 質問や意見の交流から、違う視点、立場の考えも取り入れて、自分の考えを再構成できるように、自分のマップを修正させる。</p> <p>○ 自分のマップを振り返り、自分の考えの変容を文章で表現させる。</p>

4 本時 ラベル図を活用した全体交流 (10 / 14)

5 本時の目標

- 新聞社のAさんたちが、同じ日に何度も新聞を作り直している理由について、友達のリベル図と自分のリベル図を比較・関連させて話し合い、読者にいち早く情報を伝えたいという思いと、読者に正確な情報を伝えたいという思いの双方について関連付けて考えることができる。
考える力(比較・関連)
- 新聞社のAさんたちは、速さと正確さの双方を考えながら新聞をつくっていることを理解することができる。
生きて働く知識

6 本時指導の考え方

- 児童たちは前時までに、学習問題「新聞社のAさんたちは、なぜ何度も同じ日の新聞を作り直しているのだろう。」について、A「読者に速く情報を伝えたいから」B「読者に正確な情報を伝えたいから」という二つの視点で追究し、自分なりに見学や文書・写真資料等から調べた事実をもとにリベル図を作成している。その後、少人数グループで交流活動をして、事実認識を深め、二つの視点それぞれの事実についてA、Bグループともに事実の整理は少しできている。
しかし、両方の視点に入る事実があり、AとBはお互いに深くつながり合っていることを認識するまでには至っていない。そこで本時は、A「読者に速く情報を伝えたいから」と、B「読者に正確な情報を伝えたいから」のそれぞれのリベル図を用いて全体で交流活動をし、自分の立場と異なる立場のリベル図を比較・関連させながらリベル図を付加・修正し、二つの視点をつなげたリベル図を完成させ、学習問題の答えを導き出す。
- そこで、本時指導にあたっては、特に、次のような手立てをとる。

(1) 考えを付加・修正し、高める交流の組織化

- 代表児の選定
代表児は追究していないグループに納得できる事実を認識させるために、A・Bグループともに、事実認識がしっかりできているリベル図を作成した児童とする。
- 実態カルテの活用
必要に応じた支援ができるように、また、AとBの視点を関連付けて考えさせるために、事前に代表児のリベル図を全児童に配布し、質問する箇所等を考えさせておく。その内容と各個人が作成したリベル図の内容をまとめた実態カルテを作成する。
- 交流に用いる資料
AとBそれぞれの代表児リベル図について質問を考える際の観点は、①ラベルに書いてある言葉の意味②学習問題やタイトルとのつながりの2つとし、分類してプリントにまとめさせる。交流活動の際は、そのプリントを手元に置いて発言させる。
- 交流させる順序
速さと正確さの2視点を関連付けて考えさせるために、それぞれの視点の事実認識を深めた後、関係認識に気付くことができるように交流させる。
 1. ラベルに書いてある言葉の吟味をする。
 2. 学習問題やタイトルにつながらないラベルを検討する。
 3. 2つの視点、グループに共通するラベルに注目し、つながりを見出す。
 - ・ 画像処理が速いコンピュータ(→きれいな画像にできるコンピュータとして、正確さにも入る)
 - ・ 夜遅くまで最新記事に手直し(→夜遅くまで何度も記事の手直しとして、正確さにも入る)
- 操作できる板書
視覚的に分かりやすいように、代表児のリベル図は視点ごとに色分けし、操作可能な板書として表す。

(2) 考えを比べたり、つなげたりして交流できる場の構成

- 児童が交流で活用できる学習環境
発言の際に活用できるように、見学時の写真や調べ学習で用いた写真資料、文書資料等は掲示しておく。

本時の主張点

本時では、新聞社のAさんが何度も同じ日の新聞を作り直しているわけについて、より速く情報を伝えたいという視点と、より正確な情報を伝えたいという視点のどちらかを追究していた児童が、代表児のリベル図を検討することで二つの視点を比較・関連づけて考える姿をねらっています。そのために、特に、ラベルに書いてある事実を吟味した上で、速さと正確さ両方の視点に入るラベルを取り上げ、それぞれの視点に入る理由を考えさせる活動に重点を置いて交流させていきます。

7 本時の展開

学習活動と内容	支援 (○)・留意点 (※)
<p>1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題</p> <p>新聞社のAさんたちは、なぜ何度も同じ日の新聞を作り直しているのだろう。</p> <p>めあて</p> <p>新聞社のAさんたちが何度も新聞を作り直すわけについて、自分のラベル図と友達のラベル図をくらべたりつなげたりして考えを話し合い、自分の考えを高めよう。</p> <p>2 代表児のラベル図をもとに、それぞれの考えの検討をする。</p> <p>(1) 代表児がラベルの意味やグループ化した理由を説明して、考えを提示する。</p> <p>A 速く伝えたいから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの情報もすぐ手に入る全国76か所の取材拠点 ・ レイアウトや画像処理が速いコンピュータ ・ 一度に40ページ印刷できる最新のカラー輪転機 <p>B 正確に伝えたいから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きめ細かい情報を集められる全国76か所の取材拠点 ・ きれいな画像にできるコンピュータ ・ 人の目で印刷後の最終チェック <p>(2) 考えの検討をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ラベル化した言葉の吟味(事実認識) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「パソコン」とはどんな意味か。 ・ 「取材用ヘリコプター」とはどんな意味か。 ○ 学習問題やタイトルとラベルのつながり(事実認識) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「速さ」の視点に「たくさんの人から取材」のラベルを入れるのは適切か。 <p>3 両視点に共通するラベルに注目し、考えを見直す。</p> <p>(1) 両視点に共通するラベルを見つけ、つながりを見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「19ヶ所の海外支局」(海外の情報がすぐに手に入る。また、たくさん支局があることで、より詳しい情報が手に入る。) ・ 「夜遅くまで記事を手直し」(最新の情報をすぐに伝えられる。より正確な情報にするために、何回も手直ししている。) <p>(2) 二つの視点のつながりについて考えたことを発表する。</p> <p>予想される児童の変容の例</p> <p>○ 新聞社のAさんたちが、何度も同じ日の新聞を作り直しているのは、わたしたち読者に対してさまざまな情報を、より速く、より正確に伝えたいという二つの強い思いがあるからということが分かりました。</p> <p>4 「今日の学習で」を書き、次時の予告を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流を通して高まったところ(2つの視点でつながりが見出せた点)について ○ ラベル図の付加・修正と学習問題の答えの文章化 	<p>※ 前時までにモデルとなるラベル図を選択しておく。</p> <p>※ 代表児以外の児童には、異なる視点のラベル図に質問する箇所を考えさせてプリントにまとめさせておく。</p> <p>※ 質問箇所をまとめたプリントは机上に置かせ、発言の際の補助資料とさせる。</p> <p>○ 代表児のラベル図を黒板に掲示する。それぞれのラベルは視点ごとに色分けし、移動できるようにしておく。</p> <p>○ 考えを提示するときには調べた事実をもとに具体的に発表できるように、児童が調べた資料等は必要に応じて拡大して掲示しておく。</p> <p>○ 検討させたいラベルはあらかじめ選択しておく。また、必要に応じて意図的に指名していくことができるように、各個人のラベル図と質問内容をまとめた実態カルテを作成しておく。</p> <p>○ 両視点を比較してつながりを見出すことができるように、両視点に共通するラベルと、そのラベルの意味を発問によって考えさせる。</p> <p>○ つながりが視覚的に分かるように、板書上の共通するラベルを移動させたり、線でつないだりする。</p> <p>○ 二つの視点をつなげて考えることができるように、「共通する事実がたくさんあったが、結局Aさんはなぜ何度も新聞を作り直しているのか」と発問し、改めて学習問題を振り返らせる。</p> <p>※ 学習に対する自己評価がしやすいように、「今日の学習で」のプリントには振り返る観点を明記しておく。</p>